

「天国の花菜に届け」

心に傷負った親友も演奏

記 西野 友章

浜名湖で野外活動授業中にボートが転覆し、愛知県豊橋市立章南中学校1年生の私の娘西野花菜（当時12）が亡くなった事故から、18日で2年でした。同校であった追悼コンサートでは、今も事故の記憶に苦しむ親友の女生徒が思い込めて演奏しました。

コンサートでは、花菜が所属していた吹奏楽部員19人が歌手西野カナさんの「君って」など2曲を披露。花菜と友人らの撮った写真スライド約100枚が舞台上に映し出されました。女生徒は、アルトサクソスのソロパートを任せられました。いすを置き、その上に花菜の担当だったホルンを置きました。「何でも話せる一番の親友だった。花菜を思っただけでなく楽しく演奏した。本当なら花菜がそばにいたはずなのに……。でも音楽が天国の花菜に届いたと思う」

女生徒は、小学4年から6年まで花菜と同じ音楽部に所属していました。きちょうめんな自分とマイペースの花菜は不思議と気が合っていました。「2人はいつも笑っているね」音楽部の教員からよく言われました。

2年前の6月18日、2人は同じボートに乗りました。転覆は「スローモーションみたいだった」ひっくり返った船の中は薄暗く、水面があごまで迫る。波が押し寄せるたびに上の船底に頭をぶつけ、水を飲んだ。同級生の泣き叫ぶ声が聞こえました。

「花菜がいない」助け出された後すぐに気づき、救助隊に訴えました。

親友を失ったショックで、心的外傷後ストレス障害（PTSD）と診断され、今も月2回、市内の心療内科に通います。狭い空間のエレベーターは怖い。水も怖くて、プールの授業は休んでいます。

事故の影響などで、2年生の時は授業の半分ぐらいを保健室や相談室で過ごしました。それでも部活は続けました。「音楽まで失いたくなかった」といいます。

私は「2年たつても区切りはつかない。でも、みんなが友達でいてくれて、一生心の中で忘れないでくれると思える。花菜、よかったね」

【2012年6月19日朝日新聞参照】



「自責の念 忘れず研鑽」

浜名湖事故2年 中学校で黙とう

事故から2年がたった18日朝、校長は教員らに「生徒の命を救えなかった自責の念を忘れることなく、安全意识を高めて自己研鑽する教師であることを誓い合いたい」と訴えました。コンサートの前に生徒らに「教訓やノウハウを他の学校に広め、学校安全のリーダーとなる」と語りましたが、終了後の会見では、野外学習の安全を守る独自の取り組みをしてこなかったことを認め、「理念だと言われれば仕方ない」と語りました。

【2012年6月19日朝日新聞参照】



追悼コンサート

豊橋・章南中 西野さんしのび

記 西野 友章

浜松市の浜名湖で2010年6月、野外活動中のボートが転覆し、豊橋市立章南中学校1年生の私の娘西野花菜(当時12)が亡くなった事故で、2年の節目となる18日、花菜を追悼するコンサートが同校体育館でありました。

タイトルは「光奏でる友と 娘は太陽だった 音楽大好き 友達大好き」。演奏したのは大阪府のバンド「ミュージック・プレゼンターおとや」の4人。ピアノの石熊楽子さんが私の妻光美と友人で、企画が実現しました。4人はハーモニカなどで「星に願いを」といった10曲をジャズ風に演奏し、西野花菜と同じ名前の歌手西野カナさんの曲も紹介しました。

演奏中、花菜が通った小学校の修学旅行や卒業式の様子を写した写真計百枚も舞台のスクリーンに映し出されました。おとやのメンバーと花菜が在籍した章南中吹奏楽部との合奏もあり、ハンカチで涙を拭う女子生徒もいました。

私は「演奏を聞き、娘を思い出してもらえたら。事故の再発防止のため、学校や豊橋市が具体的な対策に取り組んでほしい」と話しました。

【2012年6月19日中日新聞参照】



ボート事故から2年 西野さんしのび

章南中学でコンサート

記 西野 友章

浜松市の浜名湖で起きたボート訓練中の転覆事故からちょうど2年がたった18日、豊橋市の市立章南中学校で、亡くなった私の娘西野花菜(当時12)をしのぶコンサートが開かれました。

事故を風化させず、命の大切さを考えようと、昨年から市内の全中学校で行われている「豊橋・学校のちのちの日」の一環。体育館で行われたコンサートには、花菜と一緒に訓練を受けた3年生94人を含む在校生約300人と教員、保護者らが参加。

花菜の母、光美さんの高校の同級生がメンバーの1人となっているバンド「ミュージック・プレゼンターおとや」が私たちのリクエスト3曲を含め、軽快なジャズ、ポップス11曲を演奏しました。

演奏に合わせて小学校の修学旅行や卒業式など、級友と明るく笑う花菜を写した約100枚のスライドが舞台上のスクリーンに映し出されました。また花菜もメンバーだった吹奏楽部員が加わり、2曲を一緒に演奏しました。コンサートに先立ち、職員室では朝礼で職員全員が黙とう。生徒たちは道徳の授業などで命の大切さを学びました。

【2012年6月19日読売新聞参照】

ボート事故から2年 西野さんしのび

浜松市の浜名湖で起きたボート訓練中の転覆事故からちょうど2年がたった18日、豊橋市の市立章南中学校で、亡くなった私の娘西野花菜(当時12)をしのぶコンサートが開かれました。

事故を風化させず、命の大切さを考えようと、昨年から市内の全中学校で行われている「豊橋・学校のちのちの日」の一環。体育館で行われたコンサートには、花菜と一緒に訓練を受けた3年生94人を含む在校生約300人と教員、保護者らが参加。

花菜の母、光美さんの高校の同級生がメンバーの1人となっているバンド「ミュージック・プレゼンターおとや」が私たちのリクエスト3曲を含め、軽快なジャズ、ポップス11曲を演奏しました。

演奏に合わせて、小学校の修学旅行や卒業式など、級友と明るく笑う花菜を写した約100枚のスライドが舞台上のスクリーンに映し出されました。また、花菜さんもメンバーだった吹奏楽部員が加わり、2曲を一緒に演奏しました。コンサートに先立ち、職員室では道徳の授業などで命の大切さを学びました。

トは今年で終わるという。コンサートに先立ち、職員室での朝礼で職員全員が黙とう。生徒たちは道徳の授業などで命の大切さを学ぶ。この事故で、花菜さんの両親が今年5月、豊橋市などに対し約68万8000円の損害賠償を求め、訴訟を名古屋地裁豊橋支部に提起し、7月4日に審理が再開される。

花菜さんのスライドをバックに行われたコンサート